

しょうがの青枯病（新発生）

平成 28 年 9 月、および令和 3 年 8 月、空知地方のハウス栽培しょうがにおいて、葉が萎れ、葉先枯れを伴う症状が確認され、重症株では枯死に至った。平成 28 年発生ハウスでは、7 月下旬には地上部の生育に異常は全く認められなかったものの、9 月上旬にごく一部に枯死が認められ始め、およそ 2 週間でハウスの 1/3 が枯死に至った。偽茎を滅菌水に挿したところ、乳白色の滲出物が確認され、青枯病菌選択培地（原・小野培地）で分離したところ、乳白色で流動性のコロニーを確認し、青枯病菌特異的プライマーによる PCR を実施し、広義 *Ralstonia solanacearum* (Smith) Yabuuchi, Kosako, Yano, Hotta and Nishiuchi と同定した。

（中央農試）



しょうがの青枯病（空知農業改良普及センター 原図）